



2014 年 3 月号

第 4 号

ひょうたん塾通信

平成 25 年度復興支援の担い手の運営力強化実践事業

主催：ひょっこりひょうたん塾運営協議会 ひょっこりひょうたん塾プロジェクト実行委員会
大槌町・東京都 東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

© 井上ひさし / 山元護久 / ひとみ座 / NEP21 / キャラクターデザイン 片岡昌



たくさんの「ドン・ガバチョ」が、ひょうたん島のまちでやってみたいことを書いてくれました！！

我が町のドンガバチョ宣言

～町の人たちが考えた、ひょうたん島のまちでやってみたいこと～
●釣り大会●島までの水泳競争●蓬莱島のライトアップ●オットセイクルージング●島めぐりツアー●体験人形劇●奇想天外な町づくりの話●ひょうたん島で始まる恋の旅●キャラクターのそっくりさん集合●まちの看板にひょうたん島のキャラクター水族館を赤浜に、海の駅で物産販売等賑わい創り●ひょうたん島ジャズフェスティバル など



photo by Hana Ozawa



来場者の方々にも楽しんで
いただきました



グ
ラムにも
ひょうたん島が!!



全
国各地から
ひょうたん島
が大集合!!





第4回ひよっこりひょうたん塾

じまん

「我がまちのひょうたん島ん」

ひよっこりひょうたん塾は今年度計4回開催し、町を元気にしたい塾生たちがそれぞれの思いやこれから町でやっていきたいこと、それをどう実現していくか考え話し合い、表現する場として活用されてきました。今号では、塾に参加した塾生から、感想や大槌でどんなことがしたいか、どんな町になったらいいか書いて頂きましたので紹介します。

赤浜八幡神社ひょうたん島

復興プロジェクト

顧問 黒澤 豊勝さん

赤浜にある蓬萊島には弁財天を祀り、昔からひょうたん島・弁天様の愛称で大漁・海上安全祈願の厚い信仰を得ております。NHK人形劇のひょうたん島のモデルともいわれています。平成17年から海に恵みを感謝する収穫祭と弁天様を祀る「ひょうたん島まつり」を開催していました。住民みんなで作ったことがとても印象深いです。

今回の震災では、奇跡的に木造御堂と弁天様は流失を逃れました。現在島は、震災から逃れた力強さ、自分たちの誇りとなっています。復興に向け力は微力ではありますが熱意はしっかりと持ち続け、いつの日

かまたひょうたん島祭りができる地域にしたいと考えております。

大槌町郷土芸能保存団体連合会

会長 阿部 富二男さん

今回の津波にも負けず残っている蓬萊島は、弁天様を祀り、漁業の暮らしを守ってくれていました。祭りの際は、大漁や海の安全を願って伝統芸能は奉納されています。震災後は様々な困難が続く中、仲間と共に郷土芸能を披露する機会が増えてきました。その理由は、郷土芸能が後押しをしてくれて、震災後の暮らし再建を踏ん張ることができると。支援いただいた方々へ感謝の気持ちを伝え・繋ぐことが郷土芸能を通してできること。があげられます。弁天島の津波にのまれても残った力強さを感じ、伝統芸能の仲間と共に演じることが、震災後、復興に向けて前に進むための地域の活力とシンボルになるのではないかと思います。



もつと島のアピールを

斎藤俊輔さん（役者・人形使い）

人形使いとして全国を回っていました。9年前にひよっこりひょうたん島の上映で大槌町に初めて来ました。その後、一昨年人形を持って町の人たちを元気づけようと大槌に来ましたが、震災後の光景を見て言葉が出ませんでした。昔大槌に来たとき、綺麗な風景の中で写真を撮ってもらったので、しかしプラスバンドの子どもたちが明るくて逆に元気をもらいました。大槌のひょうたん島は灯台もあり、ひよっこりひょうたん島に一番似ていると思うのでそこをもつとアピールした方がいいと思います。そしてまた大槌に来て人形を舞台をやってお客さんにも喜んでもらい



今回の展示では、平成16年に行われた第1回ひょうたん島祭りの放映も



来場者にひょうたん島キャラクターの人形を演じてくださった斎藤さん

防災戦隊 ホウライオー

意気込み！

今の大槌は、人口流出、少子高齢化、産業・商業の衰退、防潮堤他、様々な問題があります。その課題に対し、行政関係者、企業、商店、福祉関係者、NPO、町民が町の復興のために、日々余裕なく、必死で取り組んでいます。先の見えない中でいろいろな思いを抱えながら、町民は日々生活しています。

大槌町青年団体連絡協議会は、町民の立場からどんな小さなことでも、自分たちでできることをやってみよう！という思いから防災戦隊ホウライオーを制作しました。

子供たちに勇気を与え、地元の大人が町のために活動している姿を見せたい！今を一生懸命生きている町内の大人たちに笑

い（息抜き）を与えたい！全国の人に支えられながら、楽しみながら町の未来を描くお手伝いがしたい。防災戦隊ホウライオーは、大槌町で頑張るみんなを応援します。



ホウライオーの衣装は来場した中学生に大人気！！

大槌ウィンド・オーケストラ

菅谷 安美さん

こんにちは！大槌ウィンド・オーケストラです。

ご存知の方もいらっしゃるかとは思いますが、私たちは昨年5月に大槌町に立ち上がったばかりの、一般吹奏楽団です。

現在は、「大好きな大槌に元気を、たくさんさんの支援への感謝を、私たちの音楽で届けたい！」というモットーを掲げ、日々活動しています。

立ち上がってから今までの約1年間は、とにかく団のカタチをつくることに必死でした。

2年目となる今年は、少しでも、誰かに何かを感じてもらえるような演奏をできるよう、頑張ります！

また、応援してくださっている方々に、活動を通して恩返しをしていけたら、と思っています。

いつかは、

「大槌ウィンドの演奏を聴くと、ホッとすると、元気をもらえるなあ」「この音色が、復興の調べのように感じる」「まずまず、大槌に帰ってくるのが楽しみにになった！」と、大槌を愛する皆さんに思っていただけのような活動ができるようになりたいです。

大槌、大好き！！！！

はまぎく若だんな会

我々、はまぎく若だんな会は震災後、愛する地元大槌の為に何かできないかと集まった町内の若手経営者を中心としたグループです。

昨年夏には吉里吉里海岸で「砂の芸術祭」を復活させることができました。また12月には町内の防犯パトロールを開始、今年1月には「大槌お宝マップ」を作成し、町内の小中学生に配布するなど、広く町民に町の魅力や地域の持てる力を実感してもらう機会を作り出しています。

このような活動を通し、地元根ざし

「ひよっこりひょうたん塾」

参加して！

上野拓也さん

本年度のひよっこりひょうたん塾には、塾生として参加させていただきましたが、通常業務との兼ね合いでなかなか参加することが出来ず残念に思っております。

継続参加できれば、ファシリテーションやイベントづくりの勉強として有意義なものになったはずなのですが・・・

対象が「はたらく世代」に設定してあるように感じたのですが、私と同様の理由で関わるのが難しいだろうなと思いましたし、その年代にひょうたん島というキーワードや、イベント作りを通しての人材育成というテーマはピンと来ないものであったと感じています。しかし、町の将来を考

えていく上で、話し合いやプレゼンテーションすることに町民が慣れていくこと、そして大槌町にある資源や伝統を見直したりする学びの機会は、必須だと思います。対象を「学びの世代」に設定し、もし学校教育などでカリキュラムに組み込めるな



大槌高校のコミュニティ戦略の展示、冊子の配布も行いました

ひょうたん塾が目標の大きな助けに

川崎好貴さん

私は元々、大槌町出身です。大槌高校を卒業後、県内の専門学校を経て、1年間東京で働いておりました。いずれは大槌に帰りたいとは思っていましたが、地元での就職先が定まらず、帰るに帰れないという状況でした。

そして、2011年3月11日、東日本大震災が起きました。大槌が大変なことになるのに、遠方にて何もできない焦燥感、大槌の被害状況を知るたびの喪失

たい。お芝居を見た後だと、人形を見るだけではよくわからなかった子どもたちとも距離がちかくなりますね。



感は相当なものでした。大槌に帰らなければ、という思いは日に日に強くなっていきましました。

現在、私は縁有って、K A I・O T S U・C H IというIT会社で働いております。この会社は関西大学と大阪の企業の連携により、「大槌町に新規産業を創出する・地元へ寄与する」という理念の基、創設された社団法人です。

私の目標は会社の理念通り、「大槌の発展に少しでも貢献する」ことです。ITを新たな産業として雇用の拡大を図り、また中高生向けのワークショップ開催等の地域貢献活動を考えています。

ひょうたん塾で体験させていただいたことは、私の目標の大きな助けとなってくれています。今後も学びや気付きの場として、ひょうたん塾を活用させていただければと考えています。

これからも大槌と関わりたい

島田香織さん

大槌町でも過疎化や人口流出が進んでいて、残念ですが、現状それをくい止めることはできないだろうと思っています。けれども無理に人を集めなくてもいいのではないかと、過疎化すらも楽しんでしまえばいいのではないかと、ここで暮らす人たちを見てきて思うようになりました。

大槌には古き良き時代の「人の温かさ」



ひょうたん島の黄昏

ひょうたん島のつながりから、

まちを元気に！

事務局 元持幸子

全国各地から、「ひょうたん島」にゆかりのある地域の紹介が集まり、それぞれのご当地特色や名産、地域おこしの取り組みを知る機会になりました。

人形劇ひょうたん島の個性豊かな登場人物たちが、お互いの知恵や魅力を活かしていく人形劇ひょうたん島のストーリーと同じように、各地のひょうたん島にも様々な地域性を活かした工夫がなされています。個性を大切にしながら新たな事、島の外から入ってくる事・物をつまく見極め、創造する力も求められていきます。

島ならではの小さな領域だからこそ、

があり、私のようにこの町に魅了されている人はたくさんいます。今、この町で暮らす人たちが楽しんで生活していれば、自ずと人が集まってくるのではないのでしょうか。少し楽観的かもしれませんがこの町ならそれができると信じています。

町の様子はあまり変わっていないように見えますが、住民の人たちの意識の変化は日々感じています。少しずつではありますが、前を向き、「できる人ができることを」という意識を持つ人が増えてきています。そういう人がもつと増えるようにお手伝いしながら、これからも大槌町と関わっていければ幸いです。



来場者の方々に、ひょうたん島のまちでしてみたいことなど書いて頂きました

大槌の三河屋さんに！

内金崎大助さん

第2回ひょうこりひょうたん塾「正しい失敗のはじめ方」にトラヒゲ気分で参加さ

自分たち地域を良く知りつくし、その土地ならではの知恵や風習を大切にしてきました。このような島の環境だからこそ、仲間や他への配慮、外部の受け入れにはひと工夫が必要となるのでしょう。

「まち（島）」を育むには、互いを思いやること、共に力や知恵を出し合ふこと。これらを大切に、ひょうたん塾はまちのこれからを創造していくプラットフォームでありたいと考えます。

ドンドンがんばっている人を、ちょっと応援してみよう！（ドンガバチョ）ひょうたん島のつながりから、これからの町を元気にしていきます。



全国に「ひょうたん島」と呼ばれる島は30ヶ所以上！！
(図作成 一兜育恵)

せていただきました。

被災地の買い物不便解消のお手伝いとして、重いものでも、一人前でもなんでもその日のうちに喜んで無料で配達するサービス「お買い物助け隊」を結成したのですが、気軽に利用してもらうにはどうしたら良いか？を皆さんの知恵をお貸ししていただきました。

トラヒゲだからなのか無料ではなく有料でとの意見が多数でしたが、めざすはサザエさんの三河屋さん御用聞きの子ちゃんなので、サブちゃんチックに無料で配達がんばります！

皆さんからの頂いたガバチョ今でも大事に保管しています。ありがとうございました。



このロゴが目印です！！

経験していない愉しみを叶えたい

土橋綾菜さん

我が町の愉しみはまだある。海も山もあります。前なら、夏は浪板でキャンプ。昨バーベキューしたのですが、今なら新山キャンプしてみたい！星もすごいの

だろうな。…そこでアコースティックな音楽を聴いて眠りにつけたら最高かも。「新山アコースティックキャンプ」叶うといいな。

鯨山から、登る朝日を見下ろしてみたいし、滝に打たれてもみたい。

まだまだ経験していない愉しみが、大槌にはあります。

この町にしかない宝物

一兜育恵さん

大槌の魅力を再確認する場に参加することが多くなった今、大槌には宝物がいっぱいあったことに気づかされる。自然いっばいに囲まれていることも当たり前だと思いついながら、魅力溢れるものだと思ったのは、つい最近のこと。昔から、この地に伝わるものや元々あるものも魅力なんだと、深く思うことがある。私たちの町には、本当に手の届くところに、宝物がいっぱいで、そして、また、その魅力を存分に伝えたい人たちがいっぱいいるのである。

宝物がいっぱいの大槌で「何かおもしろいことがしたい」と思っている人たちが、実は潜んでいる。ただただ、大自然に囲まれた中に集まって、自分たちの好きなことを楽しみ、大声で笑って、とことん語り合ってたつていい。歌ったつていい。踊ったつていい。それが、山でも川でも海でも…どこだつていい。でも、変わらずそこにあ

Visitor's Voices

～来場者の方々より～



●ひょうたん島の思い出はありすぎて言えない。漁師が3月にお祭りをしてたんだよな。私はこの生まれではないが、大槌に来たとき、「かなりの田舎に来ましたな一」と思ったよ(笑)今はお酒の一升瓶を持って行って大漁を祈願しているようだね。(大槌町 Mさん)

●チラシを渡されて来ました。ひょうこりひょうたん島は、放送は見ていたけれどよく覚えていないな(笑)観光資源として活用した方がいいよ。私が子どもの頃は堤防がなく船でなきゃ行けなかった。サップ船に乗って陸に上がるのなんてワクワクしたよ。島を海側から見るのが好きだった。観光なら堤防から歩いて行くのもいいとは思いますが、やっぱりサップ船で行くのがいいと思う。せっかく島が残って中の弁財天は津波で流されなかったから、「サップ船」ツアーをするといいと思う。(安渡 Tさん)

●釜石から、たまたまマストに来ていてチラシを見て来ました。ひょうこりひょうたん島の放送は知りませんでした。両親は知っているようですが(笑)この展示を見て、他の地域にもひょうたん島があることを知りました。(釜石市 S・Sさん)



photo essay by Hana Ozawa



こころうつす島

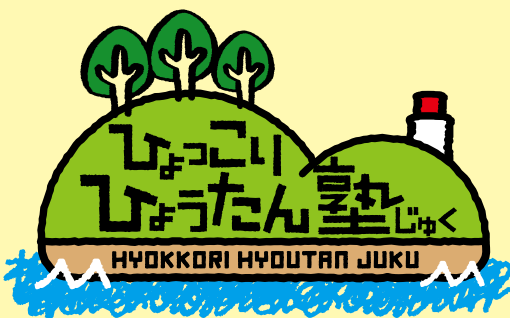
大槌湾にボツカリと浮かんでるかのよう
なひょうたん島。大槌町のシンボルともな
るひょうたん島は四季折々いろいろな顔を
見せてくれます。霧に霞んだひょうたん島、
雪に覆われたひょうたん島、暑い日差し
に照らされキラキラ輝く海に囲まれたひょ
うたん島。ひょうたん島の歌詞の「苦しい
時もあるだろさ」悲しい事もあるだろさ
だけど僕はくじけないよ」ひょうたん

島を眺めると自然に口ずさんでしまいま
す。そして誰しもがひょうたん島を前にす
るとカメラを向けたりします。今回の写
真展にはたくさんのひょうたん島の写真が
寄せられました。ひょうたん島は私達の気
持の拠り所となり写真とは「写心」なの
だと思い知らされるような写真の数々でし
た。

【事務局日記】

「ひょっこりひょうたん島プロジェクト」と初めて聞いたら、一体どんな内容なんだろうかとワクワクしませんでしたか？今回はNHKの人形劇のキャラクターを使ってモニユメントや建物を作ろうといういわゆる分かり易い（ハード事業）ではなくて、まちづくりのための楽しい学びの場として「塾」をやろうという わかりにくい（ソフト事業）のプロジェクトでした。私自身が開講当初に学んだことで一番印象に残っているのは、その両者は切り離せないということです。記念館などの建造物が将来的に存続していくためには、その中身が重要で、むしろその方が応用が利くので大切。だから（ソフト事業）。誰が、いつ、どこで、何を、どのように、なぜやるのか・・・をより多くの人と共有することで賛同があり協力者が集まり智慧を出し合い、一つの事業が成立していく。その過程で得るものは、そこにより多く関わった人が実は一番多いのです。塾という「場をつくること」を通して、さまざまなことを学ぶ機会になりました。大槌の自然や歴史から「学ぶ」と見えてくるまちのあるべき姿。これからのまちをつくっていく過程で、たくさんの体験から学ぶことが一つの財産になっていくことでしょ。

阿部智子



【ひょっこりひょうたん塾 事務局】

Eメール：hyotanjuku@gmail.com

電話：090-6229-4621

HP: <http://hyotanjuku.jimbo.com/>

FB: <https://www.facebook.com/hyoutanjyuku>